
ワインと癒しの旅 *in* オーストリア



もわりえ



1

旅のはじまり

こんにちは。あなたがこれから私の面倒を見てくれる人間さん、じゃなくて、飼い主さんね。あら、知らんぷりしているみたいだけれど、あなたのことよ、今この本を読んでいるあ・な・た。このネコいきなりいったいなにを言っているんだろう、っていう顔をしているわね。大丈夫よ。私はあなたがこの本を読んでいる間だけ一緒にいられるネコなのよ。

「ネコは嫌いです」、なんて冷たいこと言わないでね。私と一緒にいると、きっといいことがあるわよ。なぜかって？私はあなたを美味しいワインが飲めるところへ連れて行ってあげられるのよ。私が案内できる場所は、ヨーロッパのオーストリアなの。

「オーストリアのワインはあまり有名ではないでしょう」なんてまた悲しいことを言わないでね。オーストリアのワインは、まだあまり広く知られてはいないけれど、とっても美味しいの。それに、美味しいワインを飲むだけじゃなくて、

ぶどう畑が見渡せるステキなところへ行くのよ。緑が広がる景色を見たら、きっとあなたもリフレッシュできるわよ。そうそう、でもこれだけははじめに言っておくわね。私、ネコだからたくさんお昼寝をしたいの。だから私が寝ている間は、ゆっくりワインでも飲んで休んでいてね。そっと私の頭や背中を撫でてくれてもいいのよ。気持ちよくなったら喉をグルグル鳴らすからね。そうしたら、あなたも一緒に気持ちよく和めるはずよ。もちろん、私もワインは大好きなのよ。だから私が起きている時は、一緒に美味しいワインを楽しみましょう。さて、あなたも後で、私に会えてよかった、って思うことまちがいなしね。あ、そうだ私の名前、まだ言ってなかったわね。私の名前は「ラン」よ。茶色の毛色に黒いシマ模様がチャームングでしょ。それじゃあ、早速出発しましょうか。今車を呼ぶわね。私たちはワインを飲むから運転できないでしょ。いつもお願いしている運転手さんがいるのよ。あ、もう来たみたい。早いでしょ。あのブルーの車よ。

「ランちゃん、今日はどちらまで行きましょうか？ おや、また新しいお友達だね」

紹介するわ、運転手のヨーゼフさん。彼は安全運転だから安心よ。

「ヨーゼフさん、こんにちは。今回もまたよろしくお願いします」

「任せといて。じゃあ、出発するよ。シートベルト、忘れないでね」





2

バッハウ溪谷

ドナウ川沿いのぶどう畑

バッハウ渓谷 前編



オーストリアはヨーロッパの中で真ん中あたりに位置していて、ドイツ、スイス、イタリア、そしてチェコ、ハンガリー、スロバキアなんかと接しているの。国の広さはだいたい日本の北海道と同じくらいなのよ。ウィーンは行ったことあるかしら？ 音楽の都って言われているけれど、音楽って聞くとどんなイメージ？ 優雅で安らかなイメージ？ そうね、そんなところね。時間がのんびり流れているようで、それでまた、宮殿や寺院など立派な建造物が偉大さを物語っているような、居心地の良いところなのよ。今私たちが向かっているのは、ウィーンから車で1時間ちょっとのところにあるドナウ川流域、バッハウ渓谷って呼ばれているところなの。ドナウ川って知ってる？ ドイツから始まってオーストリアを通過して、それからスロバキア、ハンガリー、セルビア、ルーマニアを流れて黒海まで繋がっているととても長い川なのよ。その中で、一番美しい景観を楽しめて、一番グルメな地域って言われているところが、このオーストリアのバッハウ渓谷なの。どう？ 楽しみになってきたでしょ？

あ、ほら見て、川が見えてきた。ここはクレムスっていう町よ。ここからドナウ川クルーズの船も出ているの。えっ、クルーズに乗りたいの？ そうねえ、それじゃあとで船にも乗りましょう。今はもうちょっと車で先まで行くわね。

オーストリアには、ワインを作っている地域が大きく分けて四つあるの。今から行くところは、その中でも一番大きな地域に含まれているところなのよ。オーストリアではね、フランスのブルゴーニュとか、イタリアのキャンティーみたいに産地の名前じゃなくて、ぶどうの品種でワインを区分しているの。オーストリアで生産されているぶどうの品種は35種類あると言われていて、そのうち約3分の2が白ワインの品種なの。特に有名なぶどうは、グリューナーフェルトリーナーって呼ばれる品種よ。この品種は、オーストリアの全ぶどう栽培面積の約30パーセントを占めているの。1パーセントにも満たない割合で作られている品種が他にたくさんあるんだから、相当主力なぶどうだっていうことがわかるでしょ。このバッハウでは、グリューナーフェルトリーナーと、あとリースリングの2つの種類が主流に作られているの。酸味と果実味がああって、冷やして飲むととっても美味しい白ワインなのよ。

「さて、まずはここでいいかな？」

「うん、ありがとう。さあ、ここで降りましょう」

「天気良くてよかったね。ゆっくり楽しんでおいで」

「はい、ヨーゼフさん。またあとでね」

ここはデュルンシュタインという町よ。ほら、あそこに城跡が見えるでしょう。今は廃墟になっているけれど、あそこまで登るとドナウ川や町がきれいに見渡せるの。あのお城はそもそも1140年頃に建てられたの。その後1192年に、十字軍の帰

りにイギリスの王様リチャードが捕まっちゃって、あそこのお城に幽閉されていたって言われているの。ライオンの心臓を持っているように勇敢な王様で、リチャード獅子心王って呼ばれていたそうよ。そのことにまつわる面白い言い伝えもあるんだけどね、あら、また私話が長くなりそうだから今はやめておくわ。今日はそこまでは行かないから、先に進みましょう。



そう、あれ可愛いでしょう。薄いブルーがとてもきれいな色よね。あそこは教会なのよ。中には入れないけれど、遠くからドナウ川のそばに立つきれいな姿を写真に撮るのがいいのよね。

「すみません、写真撮ってもらえませんか？」

「はい、もちろんいいですよ。ここ綺麗ですもんね」

ねえ、あなた私の代わりに写真撮ってもらえないかしら、？ 私あまり写真は得意じゃないのよ。ありがとう。

ここから旧市街に入るの。石畳が可愛いでしょう。この町の中心はこの通りなの。小さな町でしょう。ここの階段を降りると川沿いに出るのよ。川沿いは後でまたゆっくり歩きましょう。

このお店ではあんずのジャムやリキュールが売られているのよ。あんずはドイツ語でマリレよ。この辺りにはあんずの木がたくさんあって、美味しいあんずがいっぱいとれるの。あんずのお花はちょっと桜の花に似ていて、満開になるととってもきれいよ。天気の良い日に、テラスであんずが入った甘いリキュールを飲んだりするのもまた気持ちいいのよね。

ここは老舗のパン屋さんで、「バッハウアー」 っていう名前のパンが有名よ。フランスパンが丸くなったみたいなシンプルなパンなんだけど、バターやジャムを塗って食べるととっても美味しいの。朝食で食べてもいいし、お食事と一緒に食べてもいいわね。ここにはカフェもあって、二階にはテラス席もあるのよ。人気のところだから、週末は特に混み合うの。



この可愛い通りもあそこで終わりになるけれど、ここなんだと思う？ここは古城ホテルになっているの。中世のお姫様や貴族になった気分で泊まるのもステキよね。あの川沿いのテラス席はレストランだから、お食事やお茶だけの利用もできるのよ。ほら、あそこの門からちょっと左側を覗いてみて。いい感じでしょ。

さて、せっかく天気もよくて気持ちいいから、船に乗って次の町に行きましょうか。え、ワイン？ もちろんこの町でも美味しいワイン飲めるわよ。駅の向こう側にステキなところがあるの。そこは帰りに案内するから安心して。せっかくここまで来たから、まずはバッハウ溪谷をゆっくり観光しましょう。ここの階段を降りて川沿いを歩くわよ。

あなた、水辺は好き？ 私はとっても好きなの。こうやって風に吹かれながら、川の流れる音を聞いて緑に囲まれたところを歩くと、なんだか心の中にもこうやって音を立てて綺麗な川が流れているように感じない？ 時間に追われた生活なんて忘れてしまうわ。あ、大変、急がないと船に乗り遅れちゃう。走るわよ！



天気の良い日は、こうやってデッキに上がって、ベンチに座って風にあたりながら景色を眺めるのが良いわよね。この爽やかな風、頭の中から面倒なものを追い払って

くれる感じよね。あらなにその顔、私だって面倒なことあるわよ。どうせネコはいつもご飯を食べて昼寝をしているだけだろう、なんて思っているんだとしたら大間違いだわ。

「ねえ、ネコさん」

「あら、坊や、どうしたの？」

「あのね、僕のボールが転がって、あのベンチの下の奥に入っちゃったんだ。僕じゃあの下には入れないから、ネコさん、取ってきてもらえないかな」

やれやれ、仕方ないわね。

「はい、どうぞ」

「ネコさん、ありがとう」

ほらね、こうやって人間に振り回されることもあるのよ。でも可愛い坊やの役に立てるなら嬉しいことだけれど。

あ、ほらあそこ見て、ぶどう畑が広がっているでしょ。あのね、バッハウのぶどう畑はあんな風に横に段々にになって広がっているのが特徴なの。ウィーンなんかでは、これが縦になるのよ。



あそこのぶどう畑の間を通るハイキングコースも充実しているのよ。例えば、さっきのデュルンシュタインからあそこに見えるヴァイセンキルヒェンっていう町までだと、だいたい六時間くらいのコースね。そう、ちょっと長いわよね。でもね、あの高台から下に広がっているぶどう畑やドナウ川を眺めると、とても素晴らしいの。汗を流しながら頑張って歩いて、ようやくヴァイセンキルヒェンのぶどう畑に到着すると、なんだか可愛いオブジェや休憩用のベンチもあったりして、あー、頑張って歩いてきてよかったって、心から思えるところがあるのよ。ヴァイセンキルヒェンの町はとても小さなところなんだけど、ちょっとおしゃれ心がある町なのよね。ステキなホテルもあるし。ハイキングコースはこの二つの町の間だけじゃなくて、いろいろなところにあるわよ。それから、サイクリングもできるのよ。私はサイクリングよりハイキング派だから、自転車で周ったことはないけれど。ハイキングやサイクリングはオーストリア人が好きなアウトドアライフの一つなの。



そうなのよ、このバッハウ渓谷は世界遺産に登録されているの。ぶどう畑に囲まれたドナウ川、古城や修道院も見渡せて、見事な景観でしょ。

船はこの先メルクまで行くけれど、私たちは次の停泊場で降りましょう。シュピーツっていう町なの。ここにも広大なぶどう畑が広がっていて、「千のバケツ」分って言われるくらいのたくさんの美味しいワインが造られているの。想像してみて、もの

すごい沢山の量のワインだと思わない？ 町の中心には教会があって、川沿いにはホテルやレストランもあるのよ。のんびり滞在してみたい町のひとつね。え、メルクっていう町の名前は聞いたことがあるって？ そう、メルクには豪華絢爛な修道院があるのよ。もともと11世紀に建てられたカトリック教会のベネディクト派の修道院なんだけれど、18世紀に今に残るバロック様式に改築されて、お城みたいな美しさで有名なのよ。町の高台に建つ黄色の長い外壁は、遠くから見てもとても印象的よ。修道院の中にある図書館がまたキラキラしていて驚いちゃうんだから。

さあ、降りるわよ。ここで降りる人も多いから、しっかり私の後についてきてね。

「みなさん、こちらについてきてくださいね。これからすぐにバスに乗りますからね」

あの人たちは、これからバスでメルクに向かうのね。船でこのままメルクまで行くと、まだ90分くらいかかるから、ここからバスで行くと、時間が短縮できるのよ。クレムス、デュルンシュタイン側からのクルーズは、川の流れて逆らって上っていくことになるから時間がかかるの。私たちはメルクには行かないわよ。

そうよ、あの川沿いのレストランも、二階のテラス席に座ると対岸まで見渡せて気持ちいいわよ。えっ、ううん、違うわ、今日のお昼は別のところなの。もう少し我慢してね。



まずは教会のところまで歩きましょう。

のどかな町でしょ。ここを拠点にハイキングしたり、ワイン農家を訪ね廻ったりするのもいいわよね。ほら、あれが教会。白い壁に時計のところが赤くなっているのが可愛いでしょ。前に立つ大きなマロニエの木、いいでしょう。私の大好きな木のひとつよ。



さて、ではいよいよ本日最初のワイン農家さんに行ってみましょう。こっちよ。

ああ、これね、ワイングート フランツ・ヒルツベルガーって書いてあるの。ヒルツベルガーさんのワイン農家。

「やあ、ランじゃないか。久しぶり」

「あら、ヤン、こんにちは。久しぶりね。今日はとっても良い天気だから、ドナウ川のクルーズまで楽しんできちゃったわ」

「そりゃいいね。そちらは新しい友達かい？ 奥さんは中にいるよ。今はローテストアのスマラグドかな」

「ありがとう。じゃあまたね」

あのネコはここで暮らしているネコのヤンよ。いつもその時一押しのワインを教えてください。

「こんにちは。ランです。奥様いらっしゃいますか？」

「あら、ランちゃん、こんにちは。お客様もご一緒ね。はじめまして。どうぞこちらにいらして。ワインを試飲してくださいな」

この紙はワインのプライスリストよ。左側に書かれているのがワインの名前。ぶどう畑がある地名が多いけれど、このホニフォーグルÓ みたいに、畑の場所ではない名前もあるのよ。このワインはね、グリュナーフェルトリーナーのぶどう中でも最上の作なの。

「さすがにランちゃん、詳しいわね。他にもね、ローテス トアの畑でできたスマラグドなんかもあるのよ」

では今日はそのローテス トアのスマラグドをいただきますよ。ああ、おいしい。辛口の酸味がかった味に、このほんのりとオレンジのようなフルーティーな味わい、たまらないわ。

ねえ、おいしいでしょう？ あら、テイスティングでは、全部飲みほさなくても大丈夫なのよ。残りはこの壺の中に捨ててね。えっ、ああそうね、今度はリースリングも試してみましょ。

「はい、ではこちらがホッホラインのスマラグドよ」

うん、やっぱり上品な味ね。そうね、桃の味のような甘酸っぱい優しい味よね。このヒルツベルガーさんの畑は、このシュピーツのエリアの山の上や平地などいろいろなところにあるの。外に出たら、近くの畑も見てみましょ。



じゃあ今回は私、今日飲んだワインを一本ずついただくわ。え、あなたも？　じゃあ二本ずつお願いします。

「ありがとうございます」

どうだった？　オーストリアのワイン、おいしいでしょう？　あ、ほらここにもずっと畑が広がっているでしょ。ワイン農家さんを巡るのは、おいしいワインを飲むことはもちろん楽しみの一つだけれど、こうやってぶどう畑が一面にきれいに並んでいる景色を見られることもまた嬉しいことよね。こうして眺めていると、幸せな気持ちになれるわ。

さて、ではそろそろお昼にしましょうか。ここから車で10分くらいのところにいいところがあるの。ほら、あそこでもうヨーゼフさんが待っているわ。

「おかえり。クルーズは楽しめたかい？」

「ええ、とっても気持ち良かったわ」

こうやってドナウ川沿いをドライブするのも気持ちいいわよね。クルーズとはまた違って、川が流れるところを横から見ることで、遠くまで続いている様子がよくわかるわよね。



はい、到着。この黄色いおうち、可愛いでしょ。ここはヤメックさんのワイン農家なの。ゲストハウスも営んでいるのよ。今日はここのレストランでランチを食べましょう。

「あら、ランちゃん、今日はランチ？」

「ミーコおばさん！ こんにちは。前回来た時はお会いできなかったから、お元気かどうか心配していたんですよ」

こちらのネコさんはミーコおばさん。私がまだ子猫だった頃から、お世話になっているの。

「あら、私はまだまだ元気ですよ。今日はまた新しいお友達も一緒なのね。ランちゃんは人気者ね。今日は良いお天気だから、テラス席がいいんじゃないかしら？」

そうね、じゃあ今日は外のテラス席に座りましょうか。

テラス席もほとんど埋め尽くされているわね。太陽の香りが気持ちいいわ。緑の大きな木の葉が風に揺れる音がするでしょ。ほら、向こうにはブドウ畑も広がっているのよ。

さーて、なにを食べようかしら？ おすすめ？ そうね、やっぱりこのドナウ川流域で獲れたお魚かしら？ マスや川カマスのグリル、おいしいわよ。それと、あんずのデザートもいいわよ。このあたりで収穫したあんずなのよ。そう、じゃああなたが川カマスなら私はマスにするわ。デザートはあんずのクネーデルにしましょう。飲み物は？ そうよね、ワインよね。グリューナーフェルトリーナーにするのね。すっかり覚えてくれたみたいね。

あら、いい質問ね！ スマラグトっていうのはね、辛口のバッハウ白ワインの基準分けに使われている言葉よ。主にアルコール度数によって3つに分けられているの。一番軽い11度までのワインをシュタインフェダー、その次11.5度から12.5度までのワインがフェダーシュピール、そしてもっとも強い12.5度以上のワインがスマラグトと呼ばれているの。ドイツ語だからなんのことだからわからないと思うけれど、シュタインフェダーはススキみたいな、羽毛がそよそよと揺れるような草の名前、フェダーシュピールはタカ狩りの時に活躍した鳥の一種、そしてスマラグトは、このバッハウのあたりでよく見られる緑のトカゲさんのことなの。ぶどう畑の広がる山の中をハイキングしていると、お目にかかることがあるわよ！ なんとなく、柔らかいイメージからたくましいイメージまでが思い浮かんだでしょう？ 一般的なのは真ん中のフェダーシュピールだけれど、どのワインが好きかはそれぞれの好みよね。そう、さっきは二杯ともアルコール度数が強いスマラグドのワインを試飲させてもらったことになるわね。



では、私たちの初ワインの旅を祝して、乾杯！ あ、ちなみにこれは、グリュエナーフェルトリーナーのフェダーシュピールよ。

「お待たせしました。ますのグリルです」

「こちらは川カマスのグリルです」

オーストリアには海がないじゃない。だから、こういう川魚をよく食べるの。マスはしっかりした味で美味しいわよ。川カマスの方が、ちょっとあっさりめの味かな？ よかった、美味しいって言ってくれて。

お腹いっぱいだけれど、デザートはやっぱり別腹ね。クネーデルは、お団子のこと。カッテージチーズや薄力粉、卵なんかを混ぜてこねるの。その生地であんずを包んで、おだんご状にしたものを沸騰したお湯で茹でるのよ。そして、外側にバターで炒めたパン粉と粉砂糖をまぶして出来上がり。オーストリアでよくこの時期に食べられるお菓子なの。ボリュームがあっていいでしょ。この味を知ってしまうと、あんずの時期になるとどうしても食べなくなっちゃうのよ。



「ランちゃん、こんにちは。いつもバツハウに来たら立ち寄ってくれてありがとう。お友達の方も、初めまして。今日はシュタインアムライン畑で採れたグリュナーフェルトリーナーのフェダーシュピールを飲んでくれたのね」

「おばさん、こんにちは。さすがにきちんとチェックされているんですね。お魚料理にとっても合う辛口で、美味しかったです」

「ふふ、よかったわ。いつものゼクトはどうする？」

「あ、そうですね、やっぱり頂きたいです」

「あら、ありがとう。じゃあ今用意するからこれを食べながら待っていてね、あんずのヨーグルトよ」

「わあ、美味しそう。ありがとうございます。いただきます」

いつものゼクトって何かって？ ゼクトはドイツ語でシャンパンのことなの。ここには私のお気に入りのロゼのゼクトがあって、いつも買って帰るの。

「はい、こちらは是非試してみてくださいね」

「おばさん、ありがとう。じゃあこのグラスのシャンパン、いただきましょう」

シュワっと喉に広がるこの甘酸っぱいようなフルーティーなお酒、いいわよね。ロゼってグラスに注いだ色がまた綺麗じゃない。私のお気に入りなの。あら、そう。

「おばさん、こちらの方にも一本このロゼゼクトと、さっき飲んだフェダーシュピールをお持ち帰りで用意お願いします」

さてと、お腹がいっぱいになったところで、私はミーコおばさんのところでちょっとお昼寝させてもらうことにするわ。あなたは？ あら、いいじゃない、是非メルクの修道院を見てくるといいわよ。ヨーゼフさんをお願いしましょう。ゆっく

りしてきていいのよ。今日はこの辺りで一泊しましょうね。じゃあ、またここで会い
ましょう。

いってらっしゃい、そしておやすみなさい。

